

計画事業番号	00512	事務事業名	食農教室事業	担当部署	経済部農政課	電話	4602
--------	-------	-------	--------	------	--------	----	------

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		根拠法令等	食育基本法			
事務事業開始年度	平成17年度		個別計画等	第2次北広島市食育推進計画			
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第4章) 活気ある産業のまち	
	(第1節) 農業の振興	
	(施策3) 都市住民との交流	
2 対象	市内の小学生とその保護者	
3 目的と内容	<p>ファストフードや加工食品等の消費が拡大している中で、スローフードや健全な食習慣を身につけるといったことに関心が高まっていることから、市内の小学生の児童とその保護者を対象に親子で食や農を考える機会を作ることを目的として、保健福祉部・教育委員会と共同し、野菜・果物の収穫体験などをおして農業者等との交流や、地場農産物の加工体験を行う食農教室を実施する。</p> <p>【前回推進計画からの変更点】 変更なし</p>	
4 実施内容 (手段)	28年度まで	<p>食農教室の開催(農業についての講義・農作物の収穫体験と調理試食体験)</p> <p>H26 募集人数 20組 40名 / 参加人数 8組 18名 H27 募集人数 20組 40名 / 参加人数 9組 19名 H28 募集人数 20組 40名 / 参加人数 9組 20名</p>
	29年度	<p>ホクレンくるるの杜と協同で食農教室を開催(農業についての講義・農作物の収穫体験と調理試食体験)</p> <p>対象学年の拡大を検討する。 教室開催の周知方法を検討する。</p>

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度
計画	実績	計画	計画	計画
食農教室の開催	食農教室の開催 参加人数 9組20名	食農教室の開催	食農教室の開催	食農教室の開催

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。	
1次評価	現状継続	参加した児童と保護者からは高評価を得ている。引き続き食と農について生産者等との交流を図ることを基本内容としながら、関係課にて周知方法と内容を検討し、より魅力のある効果的な事業とする。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

「拡大」
「現状継続」
「要検討」
「見直し」
「統合」
「休止・廃止」
「終了」

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			53		57		62		62	
事業額	直接事業費	国支出金	0		0		0		0	
		道支出金	0		0		0		0	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	10		20		20		20	
		一般財源	43		37		42		42	
	① 合計	53		57		62		62		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	840	0	840	0	840	0	840	0	
総事業費①+④			893		897		902		902	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	① 食農教室参加者	人	40	36	36	36
			実績値			
	②	人				
成果指標	① 事業満足度	%	100	100	100	100
	【満足記載数/参加者数】		95			
	②					
	③					

【評価項目】

チェック項目	評点	コメント
妥当性 ・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	健全な食生活に対する関心は高く、行政がそのきっかけづくりをすることは妥当である。
達成度 ・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	消費者と地元生産者との交流が図られ、アンケートの結果も良好であり地産地消や食育の推進となっている。
成果向上 ・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	募集方法について、募集対象学年を拡大することで、より多くの市民が食や農に対する関心を持つきっかけ作ることができ、事業の目的を達成することにつながる。
経済性 ・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	参加者に応分の負担を求めている。事前の準備などをより効率的に行い、所要時間の縮減に努める。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】

法律の義務付けあり

法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】
(事業担当部局が評価)

民間等での実施または市民等との協働が可能である。

民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。